

浜松市議会議員

田口 章

後援会
だより

お気軽にどうぞ
昼 053 - 447 - 3820
夜 053 - 440 - 7100

平成 21 年 6 月 9 日

創ろう！元気な浜松

今回のテーマは…

6/8(月)「代表質問」で鈴木市長に論戦を挑む

行革・教育・ものづくり

昨年 11 月議会以来の質問を行いました。
この間、わずか半年ですが、浜松を取り巻く
経済、社会、雇用環境は激変しました。

今回の質問では、景気悪化の中、行財政
改革をさらに進め、財政の健全化を図ると
ともに、浜松を支える「ものづくり」をいかに元
気にしていくか、また、子どもたちをどう育てい
くかを中心に質問しました。

以下に概要を抜粋してご報告します。文字
ばかりで見にくいですが、ぜひ、ご意見をお聞
かせください。



質問内容	答弁者と内容
1. 行政組織のあり方について (1) 区制のあり方 政令市移行後 2 年が経過し、市役所、区役所、地域自治センターなどの役割分担について意見が出されている。 今年度中に「区制の基本方針を策定する」としているが、区割りの見直しも含めた今後の方向性を伺う。 (2) 二重行政の効率化 県と市で類似している業務や外郭団体、施設などの効率化を図ってはどうか。 市内部についても、業務の棚卸しを行い、重複する業務や類似する業務の効率化に努めてはどうか。	【鈴木市長】 行政区制度の現状と課題を踏まえ、「本庁と区役所の役割分担のあり方」を整理し、平成 22 年度の組織編制の見直しに反映させる。 市議会においても、十分ご議論をいただきたい。 【鈴木市長】 効率的な行財政運営を図るため、全ての事務事業の見直しを行い、事業の実施主体を明確にし、重複する業務や類似する業務の効率化に努める。 県と本市との二重行政が認められた場合には、個別の支障事例について、施策、事業の見直しを検討する。
2. 人財の活性化について(略)	

<p>3. 財政について(一部略)</p> <p>(1) 中期財政計画の見直しと資産経営 税収減が予想される中、中期財政計画を見直す必要はないか。 また、道路や施設など高度成長期のインフラ改修が不可避となる中、資産経営の観点から、財政的な裏づけを持った上で計画を策定していくべきではないか。</p>	<p>【鈴木財務部長】 新たな都市経営戦略の策定を予定していることから、中期財政計画においても、平成 23 年度からの後期計画の見直しを実施していく。 また、資産経営の観点を踏まえながら、市民生活に支障のないよう、効率的に施設の更新、修繕ができるように、財政計画に盛り込んでいく。</p>
<p>4. 外郭団体等の適正な管理について</p> <p>(1) フォルテ清算の総括 公会計改革が進む中、外郭団体や第三セクターの経営管理の強化が必要とされる。そのためには、まず今回の浜松都市開発株の清算を、市としてきちんと総括すべき。 最終的に市の財政負担はどうだったのか。またフォルテの運営や清算から得られた教訓は何かを伺う。</p> <p>(2) 今後の事業運営管理について フォルテ清算から学んだことを、商工部だけの問題とせず、市全体の課題ととらえるべき。今後の外郭団体等の事業運営にどう生かしていくかを伺う。</p>	<p>【鈴木市長】 浜松都市開発株の清算については、出資金 4 億 5 千万円のうち、4 億 237 万 2 千円が毀損することとなった。 フォルテのような経営リスクを伴う第三セクターの運営は、行政にとってリスクが大きいことは明らかであり、今後の外郭団体の管理運営に生かしていく。</p> <p>【鈴木市長】 外郭団体の経営悪化が、市の行財政へ影響を及ぼさないための指針を定めた。今後も、外郭団体の会計、財務、財産が適正に管理運用されるよう指導するとともに、引き続き、積極的な情報開示をしていく。</p>
<p>5. ものづくりのまち浜松を今後も発展させていくために</p> <p>(1) 「産学官金労」の連携による浜松版雇用プランの構築 今回の経済悪化で明らかになったことは、経済環境に応じた雇用戦略が必要ということ。「産学官金労」を連携させ、浜松における雇用プランを構築してはどうか。</p> <p>(2) 技術者育成支援とはままつ産業創造センターの機能強化 ものづくりのまち浜松を支える大切な基盤は中小企業と技術者。中小企業には緊急的な金融支援と、中長期的なビジネスマッチングや新技術の開発支援をしっかりと実施してほしい。 加えて技術者育成のため、テクノカレッジ、ポリテクカレッジなどの連携による技能習得研修を推進すべき。 これらを推進するためには「はままつ産業創造センター」の機能強化が必要。市と商工団体が協力する中、早急に体制を整備し、機能を強化してはどうか。</p> <div data-bbox="137 1742 400 2042" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="488 1742 767 2042" data-label="Image"> </div> <p>議会は言論の府。議論してこそ市政改善は進みます。今回も、市長と熱い議論を闘わせました。</p>	<p>【鈴木市長】 産学官の連携による新産業創出の取り組みを踏まえ、金融・労働政策、また福祉・教育政策とも連動した新しい雇用・就業促進のための計画の策定に取り組んでいく。</p> <p>緊急経済対策として 1 月に創設した総枠 100 億円の「緊急経済対策特別資金」は、5 月末現在で 360 件、36 億円を超える申し込みがあった。 中小企業の競争力の強化が、地域経済活性化の重要なポイントであり、技術の高度化の人材育成支援に向けた取り組みを一層充実していく。 はままつ産業創造センターにおいて、コーディネーターによる経営や技術、知的財産などに関する相談や情報提供を行うとともに、販路開拓等のビジネスマッチングを積極的に行っていく。 新技術の開発支援については、新素材・新成型技術やパワーエレクトロニクス、取込みソフトなど、将来を見据えた新しい技術分野について、中小企業の人材育成と技術の高度化を図るため事業化研究会を立ち上げる。 ものづくりを支える技術者の育成や基盤技術の習得については、「ポリテクカレッジ」や「テクノカレッジ」との連携を積極的に検討していく。 はままつ産業創造センターは、中小企業支援における産学官の連携拠点として、なお一層の機能と体制の強化を図っていく。</p>

<p>(3)ものづくり教育を充実させるための連携強化 ものづくりのまち浜松として、子どものころからものづくりに親しむ機会を充実させることが重要。「産学官労」の連携の中で、推進ネットワークづくりを進めてはどうか。</p> <p>(4)ものづくりソフトを基盤にした「まちおこし」 浜松のものづくり産業の活性化のために、8月に行われる「バイクのふるさと浜松」に合わせて、中小企業に元気を出してもらうための仕組みや、企業との連携、お勧めツーリングコースの設定など、さまざまなメニューを用意してはどうか。</p> <p>(5)外国人労働者への支援 浜松の将来のためには外国人労働者や家族への支援はますます重要。 今、最も重視すべきは、雇用の際に必要な日本語教育支援だが、現在の状況と今後の対応はどうか。</p>	<p>【鈴木市長】 本市が「ものづくりのまち」として発展していくためには、理数教育の充実等により、創造性や探究心の豊かな人材を育てる仕掛けづくりが重要。昨年からは、静岡大学と連携し浜松 RAIN 房事業に取り組んでいる。引き続き、関係機関とのネットワークの強化を図っていく。</p> <p>「バイクのふるさと浜松」には毎年全国から3万人以上の方々に来場いただいている。7回目となる今年は新たな試みとして「ものづくり企業展」を企画し新たなビジネスチャンスを見つけていただくことを狙いとしている。 また、今年は、地元メーカーの協力により「スズキ・歴史館」並びに「ヤマハ・コミュニケーションプラザ」の臨時開館を実施する。</p> <p>外国人労働者は、日本語能力の不足に加え、職務経験も十分でなく、再就職が極めて厳しい。 昨年から日本語教室を開講し、さらに5月11日からは、就労準備研修を400人規模で開催している。年度内には、外国人の学習を支援する拠点施設として、「浜松市外国人学習支援センター」を開設する。</p>
<p>6.子どもを中心にした教育・子育てのあり方</p> <p>(1)教育委員会のあり方について 市長の政策との連携強化 教育委員会は独立した執行機関であるが、市長の施政方針と連携させるため、市長と教育委員の意見交換の機会を十分に持つべきではないか。 外国人学校への対応 外国人学校も教育委員会で所管し、浜松の子どもとして積極的に教育支援を行っていくという姿勢を示してはどうか。</p> <p>(2)学校・地域・家庭の連携強化 健全育成会への支援強化による家庭教育の推進 幼児期から青年期まで、切れ目なく、健全育成を図るためには、家庭教育の推進が必要であり、家庭・地域・学校と連携を深めて進めることができる「健全育成会」に対するサポート体制を強化してはどうか。 父親の学校参加の推進 家庭教育推進に関連して、父親の子育て参加、とりわけ学校への参加促進を進めるべき。「おやじの会」などPTA活動の一環として取り組むところを支援してはどうか。 住民が参加する地域コミュニティの拠点としての学校づくり 「先進的な取組や特色ある取組を行っている園・学校の実践例を参考にしながら生かしていく」としているが、他都市の事例調査なども行う中、モデル校を設定するなどして取り組んではどうか。</p>	<p>【高木教育長】 市長と教育委員との意見交換は、大変重要であると認識。今後も意思疎通を十分に図り、テーマ性を持った意見交換を行うなど、市長との連携をさらに深めていく。 外国人学校については、私塾の扱いとなっているため、公立学校を所管する教育委員会が外国人学校を所管することは難しい。今後、不就学の子どもの対象とした日本語教室を実施する予定であり、一層の支援の充実に向けて国際課と連携を強化していく。</p> <p>子どもの道徳性を養う基盤は家庭教育にあり、その推進には、学校・地域・家庭が共通した認識を持つことが大切。教育委員会としては、各育成会に対して、家庭教育の充実につながる提案をしていく。</p> <p>PTAの組織の中に「おやじの会」を位置づけ、父親が積極的に活動している学校も増えている。こうした事例を参考に、父親が進んで学校に足を運ぶことができるよう各学校に働きかけていく。</p> <p>地域人材の活躍の場、地域の声を受け止める場を、学校が設けることができるよう教育委員会として支援するとともに、他都市の事例も参考にしながら、地域に開かれた学校づくりに努める。</p>

答弁は、概ね納得のいくものでしたが、「外国人学校への対応」は見解が異なることから、またその他3項目については、少し気になる部分があり、再質問を行いました。

<p>再質問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県と市の二重行政は、具体的な協議の場の設置を働きかけるべきではないか？ 2. 外郭団体等のチェックは本当にできるか。市長直轄のセクションを設けてはどうか？ 3. 外国人学校の子どもの教育をどうするのか。ビジョンを示すべきではないか？ 4. 学校で「ものづくり教育」をやるべきではないか？それが市長と教育委員会の連携だ。 	<p>【市長】 県知事、静岡市長、浜松市長の 3 人のトップ会談の中で協議していく。 財政健全化法もできたので、言わずもがなだ。しっかり改善していく。最後のチェックは議会だ。議会の役割はどうか。</p> <p>【教育長】 支援は難しい。また外国人学校の子どものビジョンは、教育委員会では示せない。 開かれた学校をつくるという、教育総合計画の中で取り組んでいきたい。</p>
---	--

上記2の市長答弁で、市長から「私の考えを聞きたい」と問い返されました。市長が議員に質問するのは、「**反問権**」といわれるもので、一般的には認められていません。

しかし、私は「**議会活性化**」の点からも逃げることなく答えるべきと考え、「まさにそのとおりで、議会もしっかりとチェックをやっていくべきだ」と答えました。

おそらく、浜松市議会で、市長の問いに答弁した議員は私が初めてではないでしょうか(笑)。

まとめのコメント

区制については、この際、大胆な見直しを検討すべき。今後、しっかり勉強して、議論していきたい。

柔軟な働き方は、経営的には残業代削減につながる。今年度予算の残業代は 16 億円。市長も残業代 20%削減を掲げているが、知恵を絞って達成して欲しい。

おやじの会、ぜひ、積極的に支援してほしい。仕事は忙しいけど、何かきっかけがあれば、学校に参加してくれる父親は多い。こうしたネットワークが、よりよい地域づくり、教育環境につながると思う。

公会計改革は、財政当局だけが旗を振っても進まない。フォルテの教訓なども踏まえ、市長部局だけでなく、外郭団体まで含めて、職員の意識改革を進め、経営感覚をしっかり身につけてほしい。

中期財政計画も見直すということだが、今後の経済環境を見ながら、身の丈に合った財政計画、総合計画にすべきだということを、党派として主張する。

また、これまでの計画行政というのは、急激な環境の変化についていけない。今は、日進月歩どころか、分進秒歩の時代。計画は、適宜、見直せるようにしておかないと、硬直化する。今後の計画策定に当たって考慮すべきだ。

財政健全化と元気な浜松づくりは、決して二律背反ではない。市民ニーズをしっかりと踏まえ、事業の優先順位をつけて実行し、同時に、子どもたちにツケをまわさないために、私も市長の改革を支え、よりよい浜松を描いていく。

5～6月の主な活動

- 5月
- 02(土) 入野地区組団結式
- 03(日)～05(水) 浜松まつり
- 07(木) 連合浜松政策推進部会
- 08(金) 入野地区自治連会議
- 10(日) 入野地区組反省会
- 11(月) 建設委員会
- 12(火) 市民クラブミーティング
- 13(水) スズキ協講演会
- 14(木) 斉木武志を育てる会
入野公民館運営委員会
- 16(土) 青少年健全育成会総会
入野地区地域団体連絡会
- 18(月) 全員協議会
- 19(火) 市青少年健全育成会協議会総会
- 20(水) 議員親睦会野球部紅白選
- 21(木) IMF - JC 来浜調査
- 22(金) 連合浜松との意見交換会
- 24(日) 日産部労東海レク活動
- 25(月) 全員協議会・本会議
- 28(木) 本会議
- 29(金) 教職員組合地域ネットワーク会議
- 30(土) 入野小・大平台小運動会
- 31(日) 西都台小運動会
入野地区老人クラブ連合会総会
- 6月
- 01(月) 市政報告会(山口祐子議員主催)
- 02(火) 斉木武志を育てる会
- 03(水) 正副委員長会議
- 06(土) 教職員組合浜松支部定期大会
ビーチフットボール大会
- 07(日) 消防団方面隊訓練
入野地区子ども会連合会球技大会
- 08(月) 全員協議会・本会議 代表質問
- 09(火) 本会議
- 10(水) 本会議、自治会連合会会議
- 11(木) 厚生保健委員会
- 13(土) 都市問題公開講座(東京)
- 14(日) 水防演習
- 16(火) 大都市制度調査特別委員会
- 17(水) 全員協議会・本会議
- 22(月) 入野小学校「先輩に学ぼう」
浜松市労福協定期総会

【編集後記】 今月号は月初の発行ではなく、9日付にしました。遅くなった代わりに、質問と答弁を掲載しましたので、ぜひ、ご覧ください。

年に1度しかない本会議での質問。今回も聞きたいことはヤマほどありました。次回の質問は、来年9月までおあずけです。それまでは、委員会や日常活動の中で、しっかりと市政のチェックをしていきます。これからがんばりますので、よろしくお願いいたします。(章)